

「学生による授業評価」のまとめ 2011 年度秋学期刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会
委員長 岡地 稔

2011 年度秋学期の「学生による授業評価」(以下、授業評価)は、2011 年 12 月～2012 年 1 月に実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに心より感謝申し上げます。

今回も、これまでと同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず、原則として、1 教員 1 科目を授業評価の対象としました。これは、すべての教員が授業評価を毎学期実施することを基本にしつつ、学生および教員に過大な負担がかからないように配慮しているためです。評価対象科目の選出ルール等の詳細につきましては、教員向けの FD 関係 Web ページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。なお、授業評価結果の概要につきましても同 Web ページで開示しています。

1 授業評価の実施方法

① **対象科目** 各教員につき、それぞれの担当科目のうちの 1 科目が選択され、名古屋・瀬戸キャンパス合計で 574 科目が授業評価の対象となりました。なお、2011 年度春学期と同様、短期大学部所属教員のうち、南山短期大学・2 年次生の科目のみを担当する教員の授業評価についても、同様の原則に基づいて同時に実施しましたが、授業評価のまとめは南山短期大学で行われますので、そちらをご覧ください。

② **設問項目** 設問は 18 個あります。ただし、実際の授業評価用紙(マークシート)には 21 番までの番号が印刷されています。これは、JABEE(日本技術者教育認定機構)申請委員会が指定する科目用に追加されたものです。

設問 1 から 3 までは、学生の授業参加(出席、予習復習など)を問う内容です。4 番から 18 番は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問になっています。また、裏面は自由記述欄になっています。

③ **実施・回収手順** 授業評価の実施には教員が立ち会いますが、匿名性の観点から、受講生の代表者が授業評価用紙を回収し、事務担当部署に提出する方式を採っています。

④ **作業手順** 授業評価の実施(2011 年 12 月～2012 年 1 月) → 集計作業 → 教員への集計結果の通知(2012 年 2 月初) → FD 委員会による自由記述の閲覧(2012 年 2 月) → 教員からの報告書提出(2012 年 2 月) → FD 委員会での結果の分析・検討(2012 年 4 月) → 「南山大学『学生による授業評価』のまとめ 2011 年度秋学期」の発行(2012 年 6 月)

2 集計結果の概要

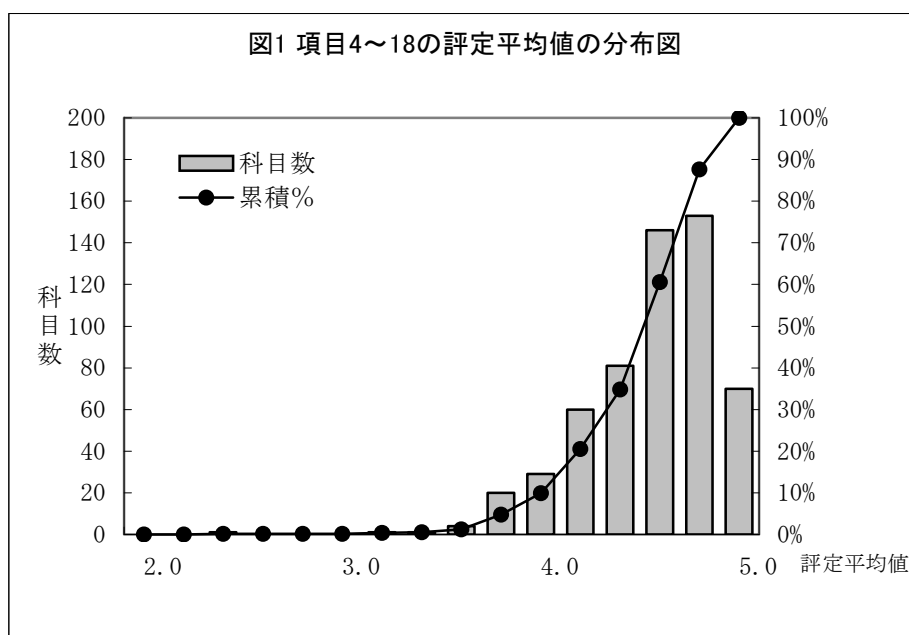
結果の概要は、括弧つきの頁部分に記載されています。

① **実施率** 大学全体では、授業評価の実施率は 99.3% (570/574 科目) でした。キャンパス別にみると、名古屋 99.2% (446/450 科目)、瀬戸 100% (124/124 科目) でした。

② **報告書提出率** 大学全体では、報告書の提出率は 100% (593/593 科目) でした。名古屋 100% (467/467 科目)、瀬戸 100% (126/126 科目) でした。

③ **評定平均値** 設問1から3までの学生の授業参加を問う項目と設問4以降の教員の授業運営や授業全体に関する項目は、性質が異なりますので、2種類の平均値を算出しています。電算処理が行われた566科目の設問1から設問18までの項目全体の平均値は、4.30 でした。また、受講生の授業参加姿勢に関する項目を除いた設問4から設問18の平均値は4.39 でした。この平均値について分布の様子を図1に示しました。

電算処理実施科目のうちの実に 90%弱の科目が、設問4から設問18の評定平均値が4.2以上となっています。この比率は過去最高の数値です。一方、設問4から設問18の評定平均値が3.0未満であった科目は1件ありました。当該科目の授業担当者には、授業改善方策の検討を別途お願いしました。



以下、すべての設問について評定平均値の分布の様子を図2-1から図2-18に示しました。

図 2-1 授業への出席

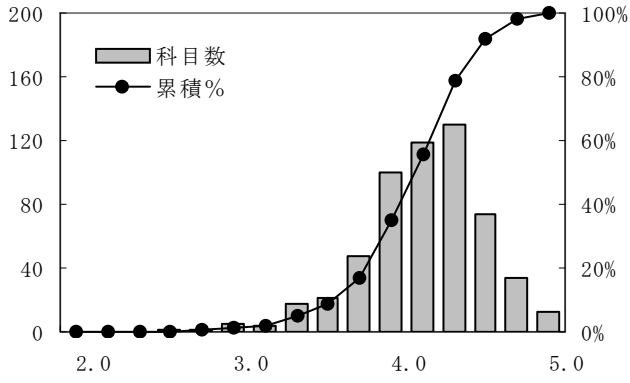


図 2-2 私語などせずに授業に取り組んだ

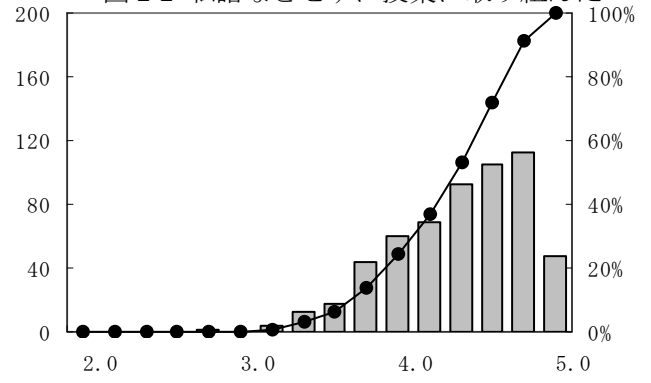


図 2-3 予習や復習など自主的な学習の実行

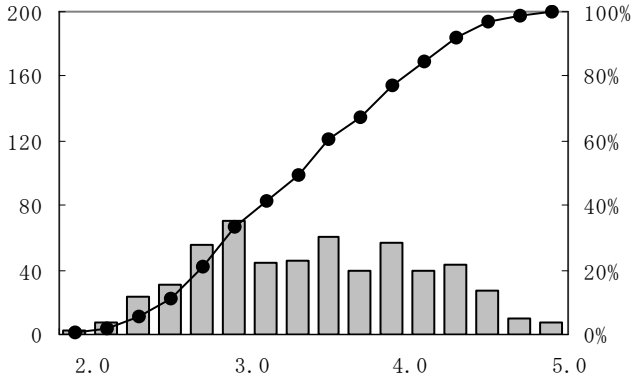


図 2-4 授業時間の厳守

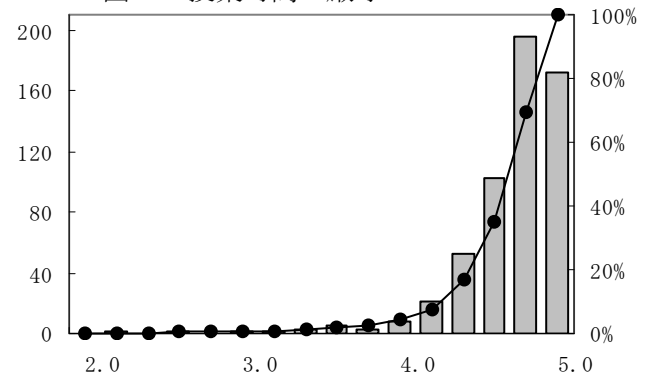


図 2-5 授業の構成や進行速度が適切

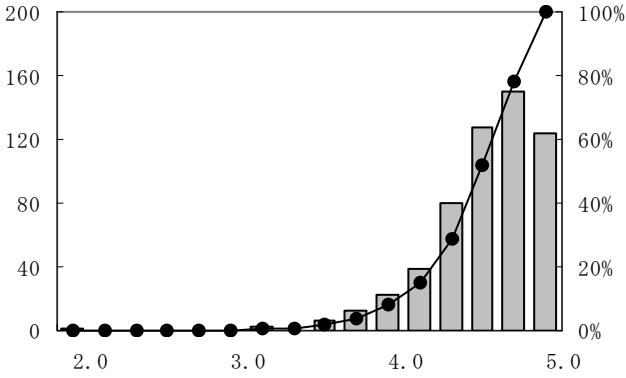


図 2-6 学修目標の明示

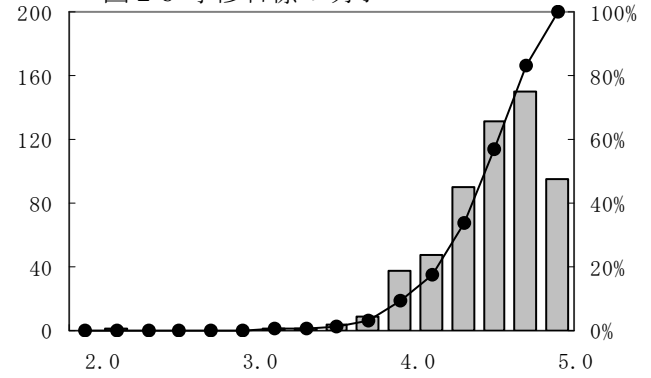


図 2-7 シラバスの有用性

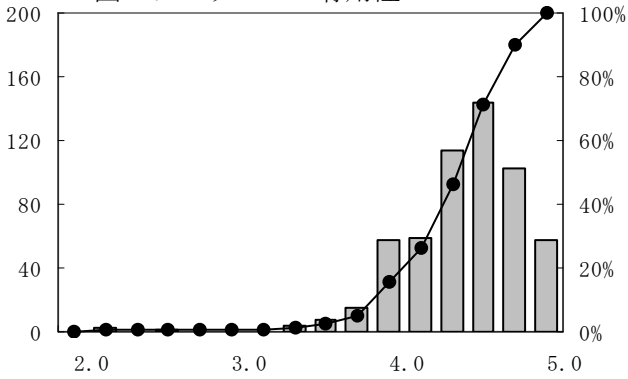


図 2-8 教員の声

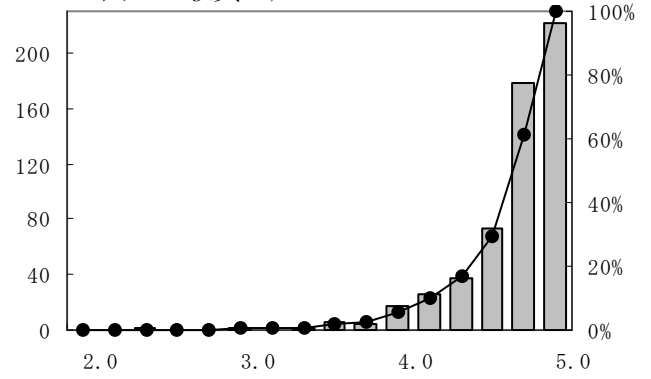


図 2-9 学生の理解度に配慮した授業の進め方

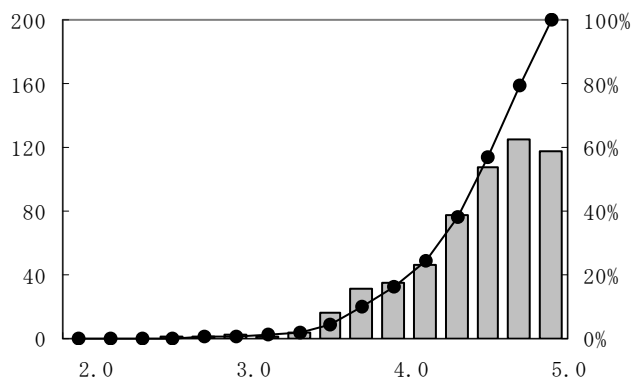


図 2-10 授業の妨げになる行為に適切な対処

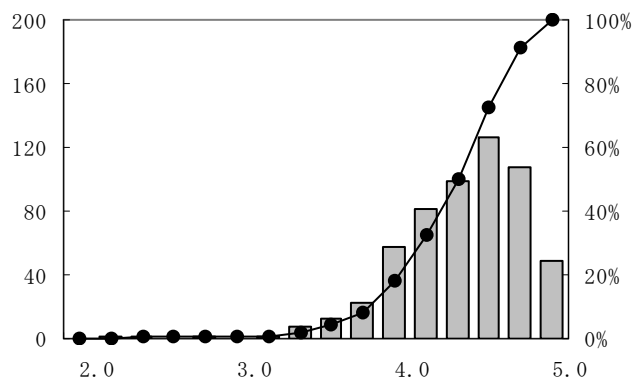


図 2-11 教科書、板書、配布資料などの効果性

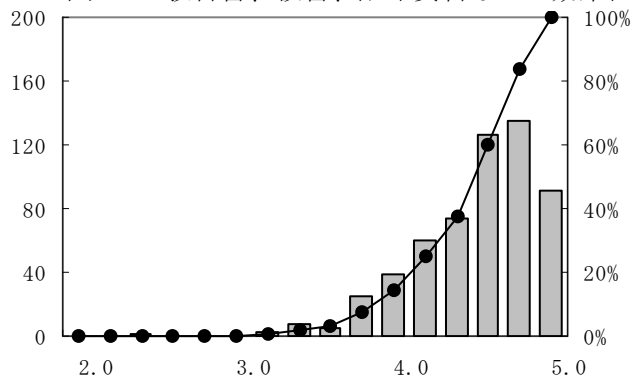


図 2-12 学生の学習意欲を引き出す工夫

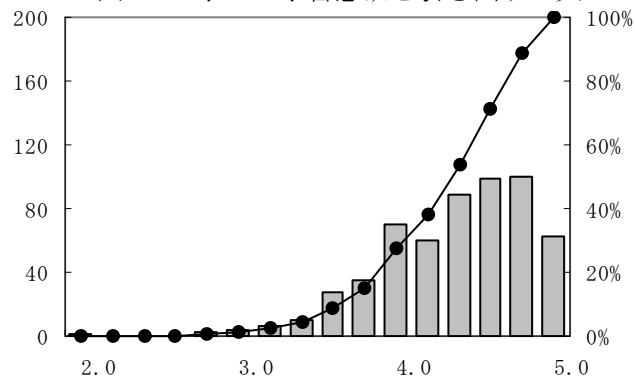


図 2-13 自主的学習のための指導・情報提供

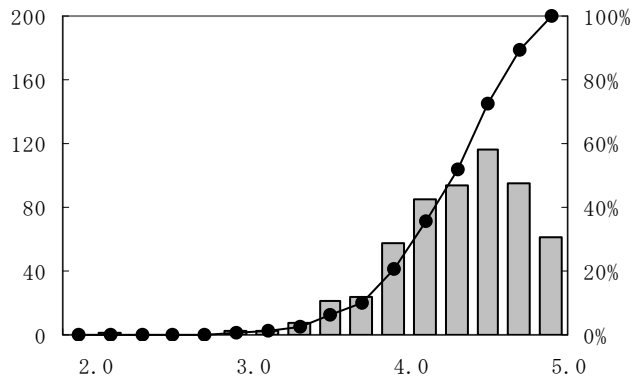


図 2-14 質問や相談の機会

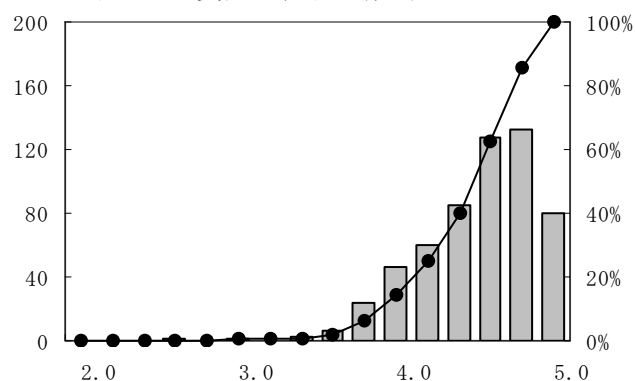


図 2-15 担当教員の姿勢の誠実さ、真剣さ

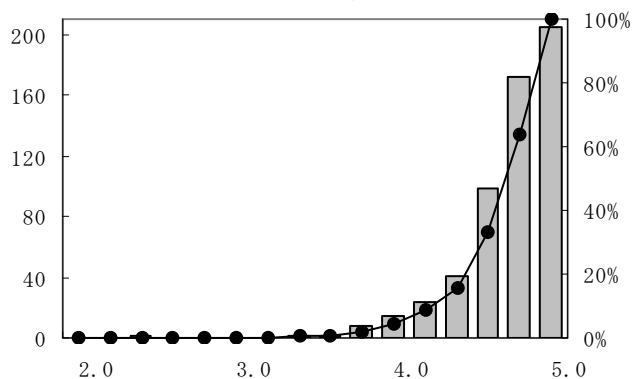


図 2-16 授業に関連する内容へのさらなる興味

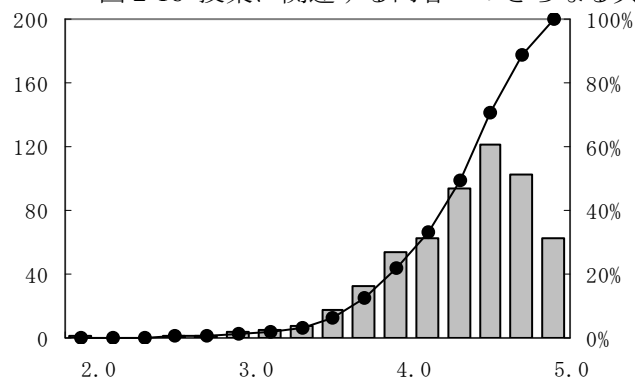


図 2-17 新しい知識や理解の深まり

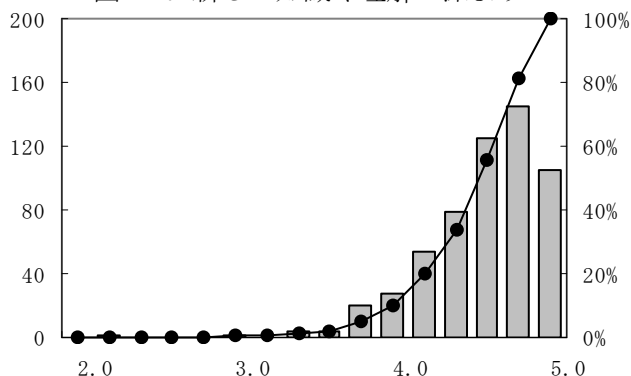
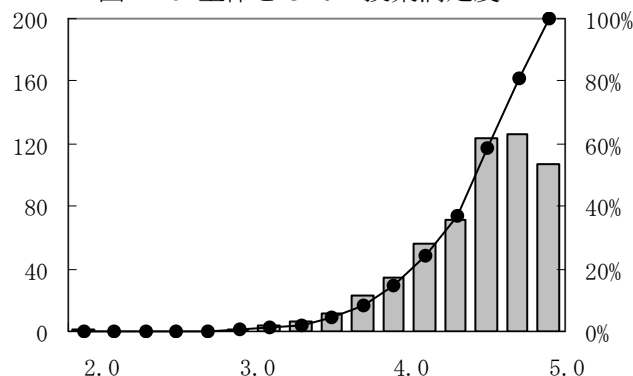


図 2-18 全体としての授業満足度



大学全体の評定平均値が極めて高い設問は、設問 15 (担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることはできましたか) の 4.61、設問 4 (授業の開始と終了の時間はきちんと守られていましたか) と設問 8 (教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか) の 4.60 でした。これら 3 項目は、設問項目を現行の内容にした 2006 年度春学期以来、高い評定値を維持しています。2011 年度春学期授業評価のまとめ冊子において、設問 15 の評定について、これが多年、高い評定値を示し続けていることは特筆すべき点であると述べましたが、今回の数値は過去最高となっています。南山大学で教える教員が真摯に授業に取り組んでいることが窺えます。

また設問 5 (毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか) と設問 6 (授業の学修目標ははっきりと示されていましたか) の評定平均値も、それぞれ 4.48、4.45 と高い値を示しています。

これらに比べると設問 12 (学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すような工夫はありましたか) と設問 13 (自主的・発展的に学習を進めることができるように、適切な指導・情報提供がありましたか) は、評定平均値がそれぞれ 4.19、4.23 と、やや低くなっています。この点も、2006 年度春学期以来見られる傾向です。

設問 18 (全体として、あなたはこの授業に満足しましたか) は、学生による授業評価が始まって以来、一貫して設定されてきた重要な項目です。評定平均値は 4.37 であり、約 85% の科目が 4.2 以上の評価を受けており、全体として授業に満足しているという意見が多いといえます。ただし 3.0 未満の評価を受けている科目が 2 科目ありました。

設問 4 から設問 18 のすべての評定平均値は 4.1 を上回っており、今回の調査においても、本学教員が授業に誠実に取り組んでいることを、学生がしかるべく評価しているといえます。

3 評定値の推移について

授業評価対象科目の選出方法が現行の方式となり、かつ、18 の設問で評価を求めるようになったのが 2006 年度春学期からです。以下に紙幅の都合上最近 9 期分の評定値を表にして示します。

表1 項目 4 から 18 の評定平均値 (2007 秋～2011 秋)

年度・学期	2007 秋	2008 春	2008 秋	2009 春	2009 秋	2010 春	2010 秋	2011 春	2011 秋
全 体	4.21	4.18	4.26	4.27	4.25	4.28	4.36	4.32	4.39
名古屋	4.25	4.21	4.3	4.3	4.31	4.33	4.39	4.35	4.43
瀬 戸	4.09	4.08	4.14	4.17	4.07	4.13	4.24	4.18	4.3

表2 18項目ごとの評定平均値(2007秋～2011秋)

設問項目	2007	2008	2008	2009	2009	2010	2010	2011	2011
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
1 授業への出席	4.09	4.3	4.13	4.31	4.17	4.3	4.19	4.3	4.17
2 授業への取り組み	4.05	4.11	4.1	4.19	4.08	4.16	4.14	4.17	4.2
3 自主的な学習の実行	2.86	2.88	2.91	2.99	2.97	3	3.02	3.1	3.17
4 授業時間の厳守	4.5	4.55	4.51	4.58	4.47	4.6	4.6	4.61	4.6
5 構成や速度が適切	4.33	4.31	4.35	4.4	4.35	4.41	4.47	4.45	4.48
6 学習目標の明示	4.28	4.25	4.32	4.34	4.32	4.34	4.41	4.37	4.45
7 シラバスの有用性	4.13	4.11	4.21	4.22	4.22	4.24	4.3	4.27	4.37
8 教員の声	4.52	4.48	4.45	4.53	4.51	4.55	4.6	4.55	4.6
9 理解度への配慮	4.16	4.1	4.21	4.2	4.21	4.22	4.33	4.26	4.35
10 妨げ行為への対処	4.09	4.11	4.16	4.15	4.13	4.18	4.26	4.23	4.29
11 板書、配布資料	4.17	4.14	4.23	4.23	4.23	4.24	4.33	4.29	4.36
12 意欲を引き出す工夫	3.95	3.9	4.02	4	4.03	4.03	4.13	4.07	4.19
13 自主的学習の指導	3.97	3.94	4.05	4.04	4.06	4.07	4.17	4.1	4.23
14 質問や相談の機会	4.09	4.06	4.16	4.16	4.18	4.21	4.29	4.25	4.34
15 教員の姿勢	4.49	4.48	4.52	4.53	4.49	4.54	4.58	4.55	4.61
16 内容へのさらなる興味	4.04	4	4.1	4.09	4.09	4.1	4.19	4.13	4.25
17 知識・理解の深まり	4.26	4.21	4.3	4.3	4.28	4.31	4.37	4.33	4.42
18 全体としての満足度	4.17	4.11	4.23	4.23	4.23	4.24	4.32	4.26	4.37

表1は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問4～18の平均値を学期ごとに示したものです。全体の評定平均値は、既述のように4.39となりましたが、これは過去最高の数値です。各キャンパスごとの数値も同様に過去最高となり、名古屋、瀬戸それぞれ4.43、4.30です。

単期ごとに評定平均値を見た場合、2009年度をのぞき、春学期には低い数値を示し、秋学期には高い数値となる傾向があります。昨2010年度秋学期にそれまでの最高値4.36を示した後、先回の2011年度春学期は4.32へ下がりましたが、今回は2010年度秋学期をも上回る数値となりました。

表2は、9期分の18設問ごとの評定平均値を示したものです。

学生の授業参加について問う設問1～3のうち、設問3（予習や復習など、自主的な学習を行いましたか）の評定平均値3.17は、設問自体では過去最高値ですが、全設問項目のうちで最も低い数値です。また、学生自身の授業への取り組みについて問う設問1（授業にはきちんと出席しましたか）、設問2（私語や「内職」（授業以外のこと）などせず、授業に取り組みましたか）は、かねて、春学期には高い数値を示し、秋学期にはやや低くなる傾向を指摘されてきましたが、今回は設問2において先回の春学期の数値を上回るとともに、過去最高値4.20となりました。設問1～3の数値は、全体としては増加傾向にあり、学生の授業への取り組み姿勢も真摯な方向に向かっているといえます。しかし設問群4～18の中で毎回最も低い評定平均値を示す設問が、教員に学生の意欲を引き出す工夫や積極的な授業参加を促す工夫を問う設問12（今回の評定平均値は4.19で、これ自体は過去最高値）であることを合わせ見るならば、学生の側にも教員とともに自らが授業を作り上げていくという意識をもって授業にあたる姿勢が望まれるように思われます。

教員の授業運営や授業全体に関して問う設問 4～18 については、学生による評価は、昨 2010 年度秋学期にすべての項目でそれまでで最高の数値となり、先回の 2011 年度春学期は設問 4 をのぞき、これらを下回る数値となりました。しかし今回、各数値は設問 4 をのぞいて過去最高の数値、ないしはそれと同じ数値となりました。既述のように設問 4～18 全体の評定平均値が過去最高の 4.39 となったことは、特定の項目が突出して全体の平均値を上げたというのではなく、各項目が全体でこれを押し上げたためであり、教員の授業改善の努力が着実に進められており、そして学生がそれをきちんと評価していることが読み取れると思われまます。

4 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところが、教員ごとの結果です。本報告書では、原則として 1 ページに 2 件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など** 「回答率」は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合を表しています。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性に疑問が生じることとなります。

② **レーダーチャート 2 種類** 右下の図は、回答者全員の集計結果です。左上の図は、学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目 1～3 の評定平均値が、3.0 以上の学生だけに絞って集計した結果です。

③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を踏まえて書いた報告書です。結果の自己点検・評価や、次学期に向けた改善策などが書かれています。

5 授業評価結果の活用

授業評価は、授業担当者が、自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を、学生のみなさんから収集するために行われています。

各授業担当者は、評価項目の評定平均値や、自由記述欄に書かれた「授業の良かった点」や「改善すべき点」を参考にして、自分の授業について点検・評価しています。

FD 委員会では、一定の基準に合致した科目（高評価科目および低評価科目）について、自由記述欄に書かれた各項目を閲覧しています。これは、学生のみなさんがどのような授業を高く評価しているのか、また、授業運営上のどのような問題点の改善を望んでいるのかを知るためです。ここで得られた知見については、FD 関連 Web ページ内の、「**授業評価自由記述欄からみる「よい授業」とは**」で公開しています。多くの授業担当者に、有効な教授方法や授業改善の手掛りを提供するためです。

多くの受講生によって指摘されている授業の問題点や改善要望点については、FD 委員会で検討した後、授業担当者と話し合いの機会をもつなど、改善に向けた具体的な方策を考えています。

自由記述欄に書かれた授業環境（照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など）に関する要望については、関係部署や自己点検・評価委員会で取り上げて、授業環境の整備に努めています。